

ディスクロージャー誌

2022年度上半期



目 次

ごあいさつ	1
J A兵庫みらいのプロフィール	1
1. 経営理念	2
2. 経営方針	2
3. 事業活動のトピックス（令和4年度上半期）	3
4. 農業振興活動	5
5. 地域貢献情報	6
6. 事業の概況（令和4年度上半期）	8
(1) 事業実績の推移	9
(2) 有価証券の時価情報	9
(3) 自己資本比率（単体）	9
7. 農協法に基づく開示債権の状況及び金融再生法開示債権区分に基づく債権の保全状況	10

ごあいさつ

皆さまには、平素から格別のご愛顧をいただき厚く御礼申し上げます。

J A兵庫みらいは、情報開示を通じて経営の透明性を高めるとともに、当 J A に対するご理解を一層深めていただくために、主な事業の内容や組織概要、経営の内容などについてまとめた「ディスクロージャー誌 2022 年度上半期」を作成いたしました。

当 J A の事業をさらにご利用いただくための一助として、是非ご一読いただきますようお願い申し上げます。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

兵庫みらい農業協同組合
代表理事組合長 小紫 康正

J A兵庫みらいのプロフィール

◇設 立	平成 14 年 4 月	◇組合員数	27,681 人
◇本店所在地	加西市玉野町	◇役員数	25 人
◇出 資 金	34 億円	◇職員数	371 人
◇総 資 産	4,670 億円	◇支店・営農生活センター数	17カ所

(令和 4 年 9 月末現在)

1. 経営理念

「わたしたちは農業、くらしのパートナー。

元気の農業、元気なくらしを応援します。」

J A兵庫みらいは、組合員や地域住民のよき相談相手として、地域の「農業」と「くらし」を応援していくことが基本的使命であると考えています。

J Aのもつ事業機能や相談機能をより一層高め、みらいの農業、みらいのくらしをサポートします。

2. 経営方針

(1) 地域農業の振興により、持続可能な農業の実現

細かな営農指導と販売力の強化により、地域の担い手や後継者を育成・支援し、農業者の所得増大と農業生産の拡大を進め、やりがいのある農業の実現をめざします。

(2) 協同の力で、豊かな地域社会の実現

組合員のメンバーシップ強化を図り、総合事業を通じたサービスの提供と地域に密着したJ Aファンづくり活動の実践により、共感を育む豊かな地域社会の実現に取り組みます。

(3) 健全な経営基盤の確立と人づくりの実現

内部統制の整備とリスク管理態勢の強化により、健全な経営基盤の確立に取り組むとともに、J Aを取り巻く環境変化に迅速に対応できる人材を育成します。

3. 事業活動のトピックス（令和4年度上半期）

J A兵庫みらいは、「みらいの食と農を豊かに、地域とともに歩むJ A」をテーマとする第7次中期経営計画に取り組んでいます。令和4年度上半期の主な取り組み状況を紹介します。


持続可能な農業の実現

取り組み	具体的な内容	取り組み状況																		
① 農業者の経営安定と収益力強化  	地域農産物の産地振興	<p> 水稻・黒大豆・小麦・アスパラガスの4品目を主要振興作物として位置付け、高品質・高収量に向けた栽培技術指導を強化し、農業者の所得向上と産地振興に取り組んでいます。 </p> <p style="text-align: center;">令和4年度作付面積</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>計画</th> <th>上半期実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水 稻</td> <td>4,500ha</td> <td>4,587ha</td> </tr> <tr> <td>(どんとこい)</td> <td>119ha</td> <td>106ha</td> </tr> <tr> <td>黒大豆</td> <td>102ha</td> <td>108ha</td> </tr> <tr> <td>小 麦</td> <td>310ha</td> <td>325ha</td> </tr> <tr> <td>アスパラガス</td> <td>120a</td> <td>116a</td> </tr> </tbody> </table> <p> 新たな特産に育てようと、カスミノウの試験栽培を始めました。 </p>		計画	上半期実績	水 稻	4,500ha	4,587ha	(どんとこい)	119ha	106ha	黒大豆	102ha	108ha	小 麦	310ha	325ha	アスパラガス	120a	116a
	計画	上半期実績																		
水 稻	4,500ha	4,587ha																		
(どんとこい)	119ha	106ha																		
黒大豆	102ha	108ha																		
小 麦	310ha	325ha																		
アスパラガス	120a	116a																		
② 地域の活性化	魅力ある店舗（直売所）づくり	<p> 消費者モニター会を開催し、消費者の意見を取り入れた店舗づくりに取り組んでいます。 </p> 																		
③ 地域に根ざしたJ A	担い手・後継者育成に向けた取り組み	<p> アスパラガスの生産振興を図り、栽培指導から販売までの支援に取り組んでいます。 </p> <p style="text-align: center;">作付面積（単位：a）</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>作付面積 (a)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>98</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>109</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>114</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>116</td> </tr> </tbody> </table>	年度	作付面積 (a)	H30	81	R1	98	R2	109	R3	114	R4	116						
年度	作付面積 (a)																			
H30	81																			
R1	98																			
R2	109																			
R3	114																			
R4	116																			

豊かな地域社会の実現

取り組み	具体的な内容	取り組み状況								
<p>① 総合事業を通じたサービスの提供</p> 	<p>地域に根ざし・地域に求められる総合事業の展開</p>	<p>各地域の小学校等に出向き、「出前授業」を開催し、農業の楽しさを伝え、未来の担い手育成に向けて取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● バケツ苗 ● 夏野菜の栽培指導 ● 代かき・田植え ● 黒大豆種まき 								
<p>② 組合員のメンバーシップ強化</p>	<p>正組合員・准組合員のメンバーシップ強化</p>	<p>地域ふれあい委員会、各事業所等に寄せられた組合員や地域の皆さまの意見・要望をJA全体で共有し、事業に反映できるように取り組んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 皆さまからいただいたご意見やご要望は、広報誌（6月号）に「JAの考え方」として掲載しました。 								
<p>③ 魅力ある共同活動の展開</p>  	<p>次世代に向けた地域貢献活動の実践</p>	<p>活動内容を工夫し、組合員や地域住民に選ばれるJAをめざし「JAファンづくり活動」に取り組んでいます。</p> <table border="1" data-bbox="715 1357 1385 1447"> <tr> <td>J Aファンづくり活動実施数 (全店舗上半期合計)</td> <td>28回</td> </tr> </table> <p>地域の担い手と連携し、「親子ふれあい農業体験」を開催し、次世代への絆づくりに食と農にかかる活動に取り組めます。</p> <p>「みらいキッズ親子農業体験」</p> <table border="1" data-bbox="740 1704 1362 1957"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>ともろこしの種まき じゃがいもの芽かき</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>とうもろこし収穫 じゃがいも収穫</td> </tr> </tbody> </table>	J Aファンづくり活動実施数 (全店舗上半期合計)	28回	実施月	内容	4月	ともろこしの種まき じゃがいもの芽かき	7月	とうもろこし収穫 じゃがいも収穫
J Aファンづくり活動実施数 (全店舗上半期合計)	28回									
実施月	内容									
4月	ともろこしの種まき じゃがいもの芽かき									
7月	とうもろこし収穫 じゃがいも収穫									

健全な経営基盤の確立と人づくりの実現

取り組み	具体的な内容	取り組み状況
① 環境の変化に迅速に対応できる人材育成	新採用職員への営農経済事業の意識付け強化	<p>新採用職員に向けて、農業協同組合の職員としてJAを理解するために、農業体験への参加を通して、農業知識の取得および職員間のつながりづくりに取り組みました。</p> 
② 健全な経営基盤の確立	将来の見通しを踏まえた経営計画の策定・検証	持続可能な経営基盤を確立するため、中長期の収支シミュレーションに基づく経営計画の策定・検証に取り組んでいます。

<ご案内>

イベント、商品紹介、事業等については、当JAの広報誌『Mirai Club』（みらい倶楽部）やホームページでもご案内しております。

ホームページアドレス : <https://www.hyogomirai.com/>

4. 農業振興活動

JA兵庫みらいは、「農業者の所得増大」や「農業生産の拡大」を達成するため地域農業の振興を図るとともに、農業を通じた豊かな地域社会の発展をめざして、次のような農業振興活動に取り組んでいます。

1. 安全・安心な農産物づくりへの取り組み

農薬の適正使用の指導やGAP（農業生産工程管理）の取り組みにより、安全・安心な農産物の提供に努めています。

2. 集落営農組織の育成・支援

地域農業の担い手として、集落営農組織の育成・支援を進めています。

3. 地産地消の取り組み

管内3カ所のファーマーズマーケット（農産物直売所）において、地域の消費者に地元の新鮮で安全・安心な農産物の提供に取り組んでいます。

4. 農業とのふれあい活動

「農業とのふれあい」をテーマに、収穫体験活動を実施しています。

5. 食農教育の取り組み

田植え、稲刈り等の農作業体験を通じて、子どもたちに食と農の大切さを伝えています。

5. 地域貢献情報

J A兵庫みらいは、協同組合活動の原点である「組合員の営農とくらし」を守り地域農業の振興に努めるとともに、地域社会の発展に貢献するため、さまざまな活動を展開しています。

1. 社会貢献活動

(1) 環境問題への取り組み状況

- ・環境に配慮した諸活動を展開しています。
- ・省エネルギーを実践するため、「クールビズ」の実施に取り組んでいます。

(2) 地域の安全・防犯活動

- ・地域の安全を見守る「みらいみまもり隊」運動を継続し、地域住民ならびに行政機関、警察と連携して地域の安全・安心活動や声掛け活動に取り組んでいます。
- ・行政と連携した「高齢者みまもり隊」の活動により、高齢者支援に取り組んでいます。

2. 地域貢献活動

(1) 地域からの資金調達の状況

貯金残高（令和4年9月末現在）（単位：百万円）

種 類	残 高
当 座 性	139,891
定 期 性	295,361
小 計	435,253
譲 渡 性	—
合 計	435,253

(2) 地域への資金供給の状況

貸出金残高（令和4年9月末現在）（単位：百万円）

種 類	残 高
農業近代化資金	—
その他制度資金	—
農業関連融資	557
事業関連融資	7,004
住宅関連融資	43,041
生活関連融資	2,139
そ の 他	364
合 計	53,107

(3) 文化的・社会的貢献に関する事項

① 福祉活動

組合員・地域住民の健康を守るため、町ぐるみ健診による健康管理活動をはじめ、高齢者福祉活動、地域助け合い活動に取り組んでいます。

② 職員の地域貢献への参加

職員においては、地域清掃活動や消防団活動をはじめとした社会活動に積極的に参加し、地域に根ざした活動を実践しています。

3. 地域密着型金融への取り組み

(1) 農業者等の経営支援に関する取り組み

当JAは、「わたしたちは農業、くらしのパートナー。元気な農業、元気なくらしを応援します。」という経営理念のもと、農業者をはじめ地域の皆さまに利用される総合事業体として営農・経済事業や金融機能のみならず、環境・文化・福祉といった面も視野に入れた事業・活動をおこなっています。

(2) 農業者等の経営支援に関する態勢整備

各営農生活センターに営農相談員を配置するとともに、兵庫県立農林水産技術総合センターおよび兵庫県農業改良普及センターとも連携して、農業者の農業技術・生産性向上に向けた相談・指導に応じています。

また、支店の融資担当者も農業や農業関連融資に関する知識を深め、農業者からの幅広い相談に応じることができるよう、日々研鑽しています。

(3) 農山漁村等地域活性化のための融資をはじめとする支援

農業者の多様なニーズに応じていくため、農業融資担当部門とTAC等営農・経済部門が連携し農業融資に関する訪問・資金提案活動を実施するとともに、各種プロパー農業資金に対応し、また、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取り扱いを通じて農業者の農業経営と生活をサポートしています。

(4) 担い手の経営のライフステージに応じた支援

農業後継者として新規就農者、若手専業農家、大型専業農家等の段階に応じた支援をするとともに、新規就農資金等、それぞれの段階に応じた融資制度を設定し経営と生活をサポートしています。

(5) 経営の将来性を見極める融資手法をはじめとする担い手に適した資金供給手法の取り組み

農業融資については、TAC等営農・経済部門と連携し、取引実績や青色申告書等を活用した経営分析を通じて、農業者に適した資金提案をおこなっています。また地域農業の支援として、農業設備等にご利用いただけるアグリマイティー資金の利息について、一部助成をおこなっています。

(6) 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域への貢献

「地域密着型支店づくり」による支店運営、農産物直売所の運営等を通じ、組合員、地域住民、消費者等のニーズを把握し、より身近な事業運営をおこなっています。

また、小学校等に出向き、出前授業を通して“みらい”の担い手に農業の楽しさを伝えます。親子ふれあい農業体験を開き、体験を通して家族で農業にふれあう場所を提供します。

6. 事業の概況（令和4年度上半期）

日本経済は、国際情勢の変化や急速に進む円安を背景とした原材料価格やエネルギーコストが高騰しており、長期化する新型コロナウイルス感染症の影響も含め、ますます不確実性が高まっています。

政府は、令和3年6月に規制改革実施計画を閣議決定し、組合員との対話を通じて引き続きJAにおいて自己改革が実践されるように、農林水産省が指導・監督等をおこなう仕組み、いわゆる自己改革実践サイクルを構築することとされました。

当JAでは、上記を踏まえ、今後とも多様な組合員の声をJA運営に反映し、地域農業の振興に努めるとともに、将来にわたって持続可能な経営基盤を確立・強化し、地域に根ざしたJAをめざします。

当JAは堅実で健全な経営を基本理念として、次のことに取り組みました。

その結果、令和4年9月末日現在の当期剰余金は4億8,721万円となり、計画対比109.7%となりました。

1. 信用事業

利用者に信用・信頼される地域金融機関としての機能の充実に努めるとともに、新規開拓に取り組み、取引先の拡大を図りました。

この結果、9月末貯金残高は4,352億円の実績となりました。

2. 共済事業

組合員とその家族、さらには地域住民を含めた幅広い普及活動の展開により、長期・年金・自動車・自賠責共済など必要な人に必要な保障の提供を図る推進活動を展開しました。

この結果、長期共済の新契約は、9月末現在で116億円の実績となりました。

3. 購買事業

営農指導を柱とした購買事業の展開と、組合員ニーズに合った購買品の廉価供給に努めました。また、価格の低減を図るため、予約購買の増強に取り組みました。

この結果、購買品供給・取扱高は9月末現在で8億円の実績となりました。

4. 販売事業

市場需要に応じた新規作物の導入と安全・安心な農産物生産、販売に努めました。

この結果、販売品販売・取扱高は9月末現在で4億円の実績となりました。

5. 指導事業

(1) 営農指導

地域の特性を生かした農業振興のための諸施策を実施するとともに、将来を担う農業の担い手の育成に努めました。

(2) 生活指導

地域での助け合い運動の拠点としての機能を発揮するため、高齢者福祉活動の支援に取り組みました。

(1) 事業実績の推移

(単位：百万円)

種 類		令和4年9月末	令和4年3月末	令和3年9月末
信用事業	貯 金	435,253	432,538	438,569
	貸 出 金	53,107	52,793	53,389
	預 金	377,296	372,818	379,665
	有価証券	4,262	3,768	4,743
共済事業	長期共済保有高	500,468	509,200	517,131
	長期共済新契約高	11,629	24,798	16,685
	短期共済新契約掛金	477	1,009	474
経済事業	購買品供給・取扱高	803	1,639	805
	販売品販売・取扱高	430	3,508	401

(2) 有価証券の時価情報

(単位：百万円)

保有区分	令和4年9月末			令和4年3月末		
	取得価額	時 価	評価損益	取得価額	時 価	評価損益
売 買 目 的	—	—	—	—	—	—
満期保有目的	—	—	—	—	—	—
そ の 他	4,393	4,262	△131	3,802	3,768	△33
合 計	4,393	4,262	△131	3,802	3,768	△33

- (注) 1. 時価は市場価格としています。
2. 取得価額は取得原価又は償却原価としています。
3. その他有価証券については時価を貸借対照表価額としています。

(3) 自己資本比率 (単体)

令和4年9月末	令和4年3月末
15.58%	15.17%

7. 農協法に基づく開示債権の状況及び金融再生法開示債権区分に基づく債権の保全状況

(単位：百万円)

債権区分		債権額	保全額				
			担保	保証	引当	合計	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	令和4年9月末	281	79	-	201	281	
	令和4年3月末	303	89	-	213	303	
危険債権	令和4年9月末	237	64	163	9	237	
	令和4年3月末	244	56	180	7	244	
要管理債権	令和4年9月末	-	-	-	-	-	
	令和4年3月末	-	-	-	-	-	
	三月以上延滞債権	令和4年9月末	-	-	-	-	-
		令和4年3月末	-	-	-	-	-
	貸出条件緩和債権	令和4年9月末	-	-	-	-	-
		令和4年3月末	-	-	-	-	-
小計	令和4年9月末	518	143	163	211	518	
	令和4年3月末	547	145	180	220	547	
正常債権	令和4年9月末	52,610					
	令和4年3月末	52,271					
合計	令和4年9月末	53,128					
	令和4年3月末	52,818					

(注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権をいいます。

2. 危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権をいいます。

3. 要管理債権

4. 「三月以上延滞債権」に該当する貸出金と5. 「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金の合計額をいいます。

4. 三月以上延滞債権

元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権及び危険債権に該当しないものをいいます。

5. 貸出条件緩和債権

債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権及び三月以上延滞債権に該当しないものをいいます。

6. 正常債権

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記に掲げる債権以外のものに区分される債権をいいます。